

大岡俊彦による、マトリックス 2、3 のリライト：

「マトリックス」は傑作であった。ビジュアル革命、アクション革命に加え、物語そのものも傑作である、時代を変えた映画だった。だが、その続編「マトリックス・リロード」「マトリックス・レボリューションズ」の壊滅的つまらなさはどうだ。ビジュアルは進化した。だが物語そのものは。あの二本は、我々が一作目のエンドで期待したわくわく感に答えた、正統な続編にふさわしかっただろうか。

原因は色々あるだろう。「アニマトリックス」やゲーム「エンター・ザ・マトリックス」に才能のソースを割いたこと（および運動性の確保）が間接的原因、ネオが最強になりすぎたことや、マトリックスばかり描いて（アーキテクトとの会話、マトリックスのリロードのくだりは、ネットの様々な解釈を読んではじめて可能。しかもそれが面白いのか？と言われれば首をひねる）、肝心のセンタークエスト「人類の解放」について描かれていないことが直接的原因であると僕は考える。

僕は、「マトリックスの続編は、こうであって欲しかった」という欲望のために、また僕の脚本理論「十三うどん理論」を証明するため、リライト版を書いてみることにした。

その方針は以下の通り。

- ・ネオは最強ではない。最強という中二妄想を、現実が壊す。具体的には、ネオは 10 人の「救世主候補」の一人だった、とする。ネオは候補から外れる。結果的に、ネオは救世主となる行動をして人類を救う。
- ・「敵」のアイコンがないので、スミスを敵のアイコンとする。デウス・エクス・マキナは登場せず、マシンの代表はスミスのままとする（スミスはマシンのコントロールから外れない）。彼を倒す事がネオの最終目的であるようにする。
- ・おもな冒険の舞台はマトリックスワールドではなく、人類対マシンのリアルワールドである。ここで、人類がカプセルで眠らされている「発電所」を解放してゆくことが、人類救済であり、同時にマシンの電源を断ってゆくことになる。
- ・ネオは「自分の意志で目覚める事」を重要視し、赤い薬と青い薬で、（かつてモーフィアスに選択を迫られたように）人類に選択をさせる。決して強制的に目覚めさせる事はしない。その方針が、中央評議会や第一救世主達の決定と異なり、対立する。
- ・アーキテクト、キーメーカー、ツインズなどマトリックスサイドのキャラは削除。
- ・ラストは、「人類の勝利、マシンの敗北」で終わり、和解ラストではない。

「マトリックス・リロード」改

「マトリックス2 夢のつづきは見られない」

Rewritten by 大岡俊彦 Original characters from MATRIX 2013.1ver

ACT 1

冬。NYの朝。通勤時間帯。前を通り過ぎる人々に、ネオ達がパンフレットを掲げ、配っている（ホームレスの「ビッグ・イシュー」のように）。表紙には大きく「目覚めよ！」と書いてある。

ネオのVO「なぜ人々は目覚めない？ 真実はこの世界のすぐ裏にあるというのに。かつて僕は、トーマス・アンダーソンという、プラグに繋がれて仮想現実を見続けさせられていた人間だった。今の名はネオ。ほんとうの世界での名前だ。この世界は、マシンの作り出したマトリックス --- 『夢』なんだ」

ホームレスの集団と思われ、親切そうなおばさんが小銭を置いていく。誰もが新興宗教を無視して歩くように、ネオ達を無視している。

とある地下室に、ホームレス、サラリーマン、主婦などが集められて、ビデオ上映を見ている。その内容は前作「マトリックス」で、ネオがモーフィアスに見させられたものと同じ。彼らはネオの「信者」たちだ。ホームレスは食料がもらえるからという理由で来ている。赤い薬と青い薬を彼らに配るネオ。「青い薬を飲めば、これまでのことを忘れ元に戻る。赤い薬を飲めば、本当の世界で目覚める」と。みなは意を決し、赤い薬を飲む。そこへ警察が踏み込む。「LSDを配っている連中がいるってタレコミがあった！」しかし、彼らの服を残しもぬけの殻。彼らは転送されたのだ。ネオが一人残っている。警官の顔は、スミスへと変わる。「ごぶさただな Mr. アンダーソン」「俺の名はネオだ。…砕けてなくなったのでは」「バージョンアップというのがプログラムにはある」 オープニングバトルは、ネオ vs スミスである。

リアルワールドのカプセル内で、信者たちが目覚める。かつてのネオと同じようにプラグが外れ、カプセルから排出され、ネブカドネザル号に回収される。そこへセンチネルが襲ってきて、戦闘開始となる。ネオより早く戻ってきたモーフィアス、トリニティが対応する。

マトリックス内のバトルとの同時進行。ネオは電話ボックスからネブカドネザルへ帰還。センチネルも撃退し、一段落。「モーフィアス、今回の収穫は？」「8人。ザイオンへの到着

までに、あと何人救出できるか。…しかし問題が」「何?」「目覚める意志を確認してない子が、一人手違いで混じっている」

彼女の名はイヴ。NY でブロードウェイの女優という「夢」を目指していた 18 歳。だが、何らかの手違いで、プラグを外されたのである。それはマトリックスの夢なんだ、とネオが言っても、「元の世界へ戻して」ときかないイヴ。彼氏であるアダムの元へ帰りたい、とも。水曜は 5 番街のレストランを予約していたのに、と。

夜、彼女は勝手にマトリックスに侵入。ネオはそれに気づき、追う。

マトリックス (NY) は、一見平和な日々だ。ビルの街頭ビジョンには、人気ロックバンド「エアー・スミス」のヒット曲「グッド・スリープ」のビデオが流れている。それを見て驚くネオ。なんとそのボーカルはエージェントスミスだ。知らないうちに、スミスがロックスターになっているのだ。イヴの姿を見つけ、追う。彼女はアダムの部屋に急ぐ。

一方、彼氏のアダムの部屋。彼は「エアー・スミス」の熱狂的なファン。イヴがたずねてくる。そこへネオが現れ、彼女を取り戻そうと。イヴは騒ぐ。ネオは無理矢理彼女を連れ去る。

ネブカドネザル号で、モーフィアス、トリニティは、目覚めた人たちの訓練をしている。しかしイヴはあの夜以来、部屋から出てこない。「なぜこんなことを?」と訓練の理由も分からうとしないのだ。「私はマトリックスで眠り続けていたかった。夢の続きを見ていたい」と。

そこへ、センチネルの敵襲。多数のセンチネルに囲まれ、幾名かの戦死を目の当たりにするイヴ。「これが夢だったら、どんなに楽か。でもこちらが真実なんだ」とネオ。絶体絶命のピンチに、ナイオビ船長のロゴス号が助っ人に現れた。

人類の小拠点（小さな街で、補給可能。屋台のような飲み屋もある）で、休む一行。ナイオビがモーフィアスの元恋人であることもわかる。

ナイオビが「私もある男を目覚めさせた」と紹介する。名前は?とネオが聞くと、「ネオ」だと言う。ここで驚愕の事実が明らかになる。人類は、幾人もの「ネオ」を目覚めさせていた。人類最後の砦、中央都市ザイオンにそのネオを全員集め、誰が本当の救世主か、中央評議会の判断をおおぐのだと。ナイオビの目覚めさせた男は、二番目に目覚めたので「セ

カンド・ネオ」と呼ばれている。主人公のネオは、10 番目に目覚めた救世主候補だったのだ。

一方、アダムの所、つまり自分の眠っていたカプセルへ帰りたいというイヴ。しかしあの発電所にアダムは眠っていないことがわかる。マシン達は、同じ発電所に眠る男女から精子卵子を取り出して子供を作る。つまり、同じ発電所にいないイヴとアダムは、マトリックス内で結ばれる「運命」になかった、と判明する。イヴはショックを受ける。彼と結ばれるには、マトリックス内では不可能だ。彼を目覚めさせリアルワールドで再会するか、彼の眠るカプセルの隣で眠るか。ザイオンにある中央コンピューターなら、アダムの眠るカプセルを特定できるかも知れない、とオペレーター。

今、計 10 隻の船が 10 人のネオをザイオンに集めつつある。一行は出発する。「ネオ」を人類に届けるために。イヴは、アダムの眠る場所を特定するために。

ACT 2

中央都市ザイオンに向かう途中で、「第三発電所解放作戦」の参加を、ネブカドネザル号、ロゴス号は要請される。ザイオンからの援軍も向かっている。全体の指揮はロック司令官の船。そこに乗っているのは「ファースト・ネオ」。ネオよりもずっと先に目覚めた、救世主と最初にオラクルに言われた男だ。彼は急進主義で、目覚める意志のない者をも、強制的に目覚めさせる手段を取る。NY 一デカイクラブに人々を招待状で集め、赤い薬を強制的に全員に飲ませる計画だ。

モーフィアス、ネオは反対し、マトリックスへ侵入、何も知らず目覚めさせられる人々に接触しに行くことに。道中、イヴは衝撃の事実に出会う。なんと、もう一人のイヴがアダムといるのだ。モーフィアスが「ゴースト」だと言う。マトリックスからいなくなった人物のために、マトリックスが自動的に作りだしているのだと。そこへ通勤途中のトーマス・アンダーソン（ゴースト）が通りかかる。ネオは自分のゴーストと話をするが、彼は普通に気持ち悪がり、警察を呼ぶ。エージェントがかぎつけ、警官を乗っ取る。スミスとの第二ラウンドである。

バージョンアップしたスミスは増殖をはじめ、10 人、20 人と増えていく。戦闘は街中でくりひろげられ、ファースト・ネオのいる大クラブイベントの会場へ。ファースト・ネオ、セカンド・ネオは、ネオと同等以上の戦闘能力をほこり、30 人のスミスとカンフーで戦う。

スミスはさらに増殖、100 人に。1000 人の客はショウだと思い、大盛り上がり。クスリをキメろ、とファースト・ネオの指示にみなが従い、赤い薬を飲む。1000 人は消え、転送に成功。

「自分の代わりはいる」ことを、マトリックスでもリアルワールドでも知るネオ。

一方、リアルワールドの第三発電所。一斉に、その 1000 人が目覚める。プラグがはずれ、排出され、その分、マシンの電力が落ちる。戻ったファースト・ネオは、ある決断をする。いまだ眠る残り 500 人のカプセルを破壊せよ、と。マシンの動力を絶つことが最優先だと。残りのカプセルに打ち込まれるロケット砲、マシンの動力は完全停止。第三プラントは完全制圧、すべてのマシンは破壊される。敵戦力の 10%を、削いだことになる。ファースト・ネオはこの活躍で、一躍英雄となる。

一行は、地下都市ザイオンについに到着した。(ザイオンのビジュアルは、元の機械っぽいビジュアルより、人工太陽で育つ植物たちや大樹が地下に大きくのびているような、ラピュタっぽい感じがいいと思う。ザイオンのドームの天井には「青空」がペンキで描いてある。もうだいぶはがれてボロボロなのが、戦争の長さを物語っている)

ファースト・ネオ含む 10 人の「ネオ」が評議会に呼ばれ、救世主は活躍したファースト・ネオに決まる。

一方、ザイオンのコンピュータの能力を使っても、アダムの居所は特定できない。イヴはなんのために自分が生きているのか、見失う。

救世主を迎えた、人類の宴。「生」の象徴の踊り（つまりセックス）。拍子抜けしたネオをトリニティがなぐさめる。「あなたが救世主だから愛した訳じゃない」と。「あなたは救世主である前に、血も肉もある人間。プラグに繋がれていない人類をつくりたい」と結ばれる二人。

モーフィアスは、もう一度ネオをオラクルに会わせたい、とネオを連れ、マトリックスへの再訪問。あのマンションは空き部屋に。スミスの探索をかわすために、今は拠点をつつしていたのだ。フレンチレストランの「情報屋」メロビンジアンのところへ行くが、銃で囲まれる。「お前は普通の人間ではない」と見破られたのだ。妻のパーセフォニーにキスの代償を払い、オラクルの居場所を知るセラフを紹介される。

セラフに導かれ、中華街の奥底にいるオラクルに再び会うネオ。オラクルは、「世界は可能性の重ねあわせである」と語る（量子論をベースとしよう）。「あなたも救世主であるという可能性がある、というだけ。あとは、世界が可能性の中から選択する」と。「俺は救世主ではないのか」と尋ねるネオに、「死んだ人間は救世主とは呼ばれない」とオラクル。

ファースト・ネオの提案で、第二発電所を落とす計画に。そこに眠る人々を、ザイオンのコンピュータで特定する。艦隊が出発、同時にマトリックスに侵入し、その人物たちに招待状を配る。

第二発電所陥落作戦には敵マシンの兵力が集中、新型マシンも現れる。ミフネ船長、ナイオビ船長の腕の見せ所だ。そこでファースト・ネオが戦死する。カプセルに眠る人類は一人も助けられず、いったん退却となる（ボトムポイント）。

評議会は、次の救世主を選ぶことに。セカンド・ネオが名乗りをあげ、承認される。彼は第二発電所への再侵攻を主張する。さらに、プラントに眠る人類を全員殺して、マシンの動力を奪うことを提案。いちいちカプセルの人質にびびっているから失敗したのだと。聖戦に犠牲者はつきものだと主張する。「目覚めることに納得した者を、目覚めさせるべき」と考えるモーフィアス、ネオと対立するが、評議会の多数決で、セカンド・ネオの主張が通る。

第二発電所で眠る者たちを特定するネオ。セカンド・ネオが殺してしまう前に、一人でも多くその者たちに接触し、赤い薬を飲ませて目覚めさせる必要がある。アダムがそこに含まれていない事を、イヴは安心してよいのかわからない。

マトリックスへ侵入する一行に、デジャヴが訪れる。作戦を察知したマシンがマトリックスを改変したのだ。第二発電所で眠る者たちの、行き先が変更された。場所はマディソンスクエアガーデン（などの、有名なNYのコンサート会場）。「エアー・スミス」のライブ会場である。

ACT 3

ハイウェイのバトルを使おう。イヴたちは先にコンサート会場に向かい、人々に赤い薬を飲ませることに。イヴのアイデアで、エアー・スミスのロゴの入った赤い薬を飲ませる

作戦だ。一方、ネオ、モーフィアス、トリニティは、会場へ向かうバンドメンバーたちのクルマを高速道路で急襲。スミス達との激しいハイウェイバトル。モーフィアスの日本刀アクションも入れよう。彼らのトレーラーに、大量の青い薬が積まれていることもわかる。クルマを吹っ飛ばし、トレーラーをひっくり返す。

一方、艦隊が第二発電所侵攻をはじめます。

コンサート会場では、警備員をのりつたスミスがロックスターとしてステージへ。前座バンドとセッションだ。一曲目のスタートの合図で人々が薬を飲み、次々と転送されてゆく。「shit…」 第二発電所では人々が次々に目覚め、マシンの電源が一部落ちる（そのせいで、マトリックスの電源も一部落ちる）。

ハイウェイでのスミスとネオの対決は互角。拳の交錯が大爆発を起こし、ネオは次元の狭間へ飛ばされてしまう。

セカンド・ネオの戦死と引き換えに、第二発電所がついに陥落。ネオ、イヴたちの活躍により、多くの人類も目覚めさせられた。

「私は目覚めて正しかったのか？ この人たちを目覚めさせてよかったのか？ アラーム時計に罪はないのか？」と悩むイヴ。「夢は、続かない。しかし、現実是一直続いている。私は、どちらを続けるべきなのだろう」

一方、ネオは目覚めない。マトリックスから帰ってこないのだ。トリニティはあらゆるコンピュータを駆使するが、ネオの意識の居所は分からない。

ザイオンのコンピュータで探すイヴは、偶然、アダムの眠るカプセルを特定した。

その場所とは、第一発電所。マシンシティ中央部にある、最大の発電所だ。

ネオはどこへ消えたのか。そして、イヴはアダムと再会できるのだろうか。

(「マトリックス3 第一発電所奪回作戦」につづく)

「マトリックス・レボリューションズ」改

「マトリックス3 第一発電所奪回作戦」

Rewritten by 大岡俊彦 Original characters from MATRIX

ACT 1

カンフーの道場で、セラフとネオが対峙している。オラクルが煙草をふかし眺めている。セラフが右拳を打つと、ネオは左によける。セラフ「何故左によけた？」ネオ「いや、なんとなく…」「右にも、下にも、選択の可能性はあった」

左によけた場合、右によけた場合、下によけた場合、それぞれについて、二人の「残像」が組み手をはじめめる。どの展開も、セラフの右の蹴りでとどめだ。

セラフは残像の列にあるいていき、途中の蹴りの画像をさす。「この蹴りを左にかわした場合」さらに残像の組み手が枝分かれし、チェスの局面のように組み手が展開される。全て、セラフの右の蹴りでとどめだ。ネオが工夫して局面を増やしても、全てセラフに詰まされる。

セラフ「いいか、全ては選択の問題なのだ。もう一度聞く。なぜ最初に左によけた？」ネオ「俺の選択は、間違っていたのか？」「現実とは違う。しかし選択が鍵となるのは同じだ」ネオは全ての組み手の残像の列を歩いて眺め、「ここで後手を引かなければ」と思いつく。「ほう」二人の組み手は再開、ネオの勝ちとなる。はじめてオラクルが口をひらく。「いい選択をしたわね」

ハッと目を覚ますネオ。ここは冷たい駅のホーム。モバイル・アベニュー駅。誰もいない。脱出しようにも、脱出できない駅だ。

前作と同じ、冬のNYの朝。通勤する人々に、ビラを配る集団、イヴ、モーフィアス、トリニティほか。「目覚めよ！」と書いてある。一方、街頭ビジョンからは、スミス率いる人気ロックバンド「エアー・スミス」のヒット曲「グッド・スリープ」の映像が。CMに切り替わると、スミスが紹介する子育てロボットの宣伝。「そうじロボット？ 古い古い。このマシンは子育て担当。面倒なことはすべてマシンにおまかせしなさい。何も考えなくてよいのです。その間にあなたがすることは…グッド・スリープ！」

トリニティの提案で、「オラクルの子供たち」を連れてきて、スプーン曲げやモノを浮かす実演を見せるが、手品をする集団だと思われ、小銭が置かれてゆくだけである。

イヴのVO「ネオは消えた。今どこに。帰ってくるのかも分からない」

通勤するトーマス・アンダーソンのゴースト。モーフィアス、トリニティのゴーストも。

イヴの VO「私たちのかわり、マトリックスが作りだしたゴーストは、ずっと私たちの続きを演じている。一体世界にゴーストは何人いるのか。ゴーストも世界の一部だとしたら、今ここにいる私は、いったい何？」

と、アダムとイヴ（のゴースト）が腕を組んで通りかかる。

「アダム！」と思わず声をかける。驚くアダム。イヴとゴーストのイヴを見比べる。「よく見て！私が本物のイヴなの！ そっちはニセモノ！」「ニセモノ？ 何を言ってるんだ！」もめているのを警官が気づく。トリニティ、モーフィアス vs 警官隊（エージェント）のバトル。チェイスの結果、全員、マトリックスより脱出。

ザイオンで目覚める一行。トリニティは、眠り続けるネオのかたわらに寄り添う。コンピュータを使い、探し続けるトリニティ。ネオの脳波は、マトリックスに接続した状態のまま。マトリックスのどこかに、彼はいるはず…。

ホームに電車が入って来るが、登録のないネオは乗車を禁じられる。降りてきた、インド人の親子三人と知り合う。彼はラーマ。元発電所のプログラムだ。ここはプログラム墓場に向かう電車を待つ場所、マトリックスでも最下層の部分なのだという。だが妻と結婚し、子供ももうけたので、死にたくないと言う。プログラム同士が結婚？ プログラムとプログラムをかけあわせて、新しいプログラムを生むアルゴリズムがあると言う。この子と私たちを救えないか、とラーマ。ネブカドネザル号のコードが分かるか？ とネオ。そこに接続すればマトリックス外へ転送できるかも、と。

そこへ「処刑人」トレインマンがやってくる。

トレインマン vs ネオのバトル。電車をまっぶたつなど、はげしめのやつ。結果、ネオは勝利する。

電車にのりこみ、ファイヤーウォールをくぐりぬけて、ネオとラーマ一家はネブカドネザル号へ。

目覚めたネオはトリニティと再会。無事ラーマ達もネブカドネザル号のコンピュータへ転送されたようだ。「俺は彼らと取引した。消去させないかわりに、人類に協力してくれると」

ネオの提案はこうだ。ラーマに協力をあおぎ、マシンシティ最大の発電所、第一発電所のプログラムに侵入、第一発電所の電源を停止させると。マトリックス経由で第一発電所に侵入と同時に、艦隊が物理的に侵攻し、目覚めた人々を救出、発電所を壊滅させるプランである。

一方、マトリックス内では、アダムとゴーストイヴが順調な交際を。イヴはついにブロードウェイのオーディションに受かった。まだ端役だけど。アダムはおめでとう、僕も話があるんだ、と。熱狂的ファンの立場から、ついにスミスの親衛隊に抜擢されたんだ、と。最高！と喜ぶゴーストイヴ。二人とも、夢がかなったようだね、と。

とある豪華なホテルのスイートルームに集められた、アダム他親衛隊のメンバー。そこへ入ってくる、ロックスターミス。皆緊張している。親衛隊だけに与えられる極秘任務があるという。この青い薬を、コンサート会場で配り、のませるのだと。青い薬には、「グッド・スリープ」のロゴが入っている。

ザイオンではアラートが。ドリル部隊が兵力の 70%を使ってザイオンに向かっている情報。地下から攻めてくることが明らかに。全艦隊は防衛に回る必要がある。指揮はロックと、サード・ネオだ。ネブカドネザル号の第一発電所侵入は後回しにされる。が、ネオとモーフィアスは決断する。兵力がザイオンに集中している今がチャンスだと。ナイオビが、ネブカドネザル号発進の許可を出した。たった一隻が、第一発電所へ単独飛行する。

ACT 2

ザイオン攻防戦まであと 48 時間。出来るだけ多くの者を第一発電所から目覚めさせる必要がある。プラントが停止したら、プラグが外れない者は自発呼吸が出来ないからだ。ネオたちは、マトリックスに侵入する。ネオには考えがあると。「俺は、選択をする時が来たんだ」

いつものビラ配りの場所で、ネオは「奇跡」を見せる。浮いたり、念動力を人々の前で見せるのだ。驚く人々。カメラで撮る人々。「この世界は嘘なんだ！ だから俺はこんな力がある！ いいか、目覚めるんだ！ 真実はこっちだ！ 全部マトリックスのまやかしなんだ！」

すぐにマスコミが集まる。ネットで拡散される。警察も、人々が集まりすぎて手が出せない。ネオは「奇跡の人」と呼ばれ、ニュースに緊急生出演することに。ユリ・ゲラー懐疑派のような人が、「ただの手品師でしょう？ 海でも割ってくれば信用しますよ」と冷ややかに言うが、ネオはコップの中の水をまっふたつにしてみせる。「明日の朝 7 時、日の出の時刻にグラウンドゼロへ集まれ。ほんものの海を割る奇跡を見せるから、準備するように」と。

ザイオンを砦とする攻防戦の準備。あと 24 時間ある筈だったが、ミフネが天井の穴を発見し、センチネルを打ち落とす。岩盤が計算よりやわらかくなっていたのだ。ザイオン攻防戦は、イレギュラーにはじまった。女子供を奥へ避難させろ。男たち、戦闘員は前に出よ。人類の存亡をかけた戦いははじまりである。

一方、マトリックス内。その朝 5 時に、大地震が起きる。グラウンドゼロが大陥没し、巨大な穴があく。そこに既に集まっていた人々4万人が死亡という大惨事。その犠牲者の中に、イヴ、トーマス・アンダーソン…。これはマトリックスの、都合のよいゴースト消去イベントだった。マトリックスの演算速度を遅らせる無駄なゴーストを、ガベージコレクション（メモリの整理）したのだ。7時に現れたネオにマスコミが群がり、これが奇跡かと糾弾する。ネオは「俺の見せる奇跡はこちらだ」と、本当に海を割ってしまう。その奇跡を目撃する、多くの人々。「地震は、マトリックスがわざと起こした。マトリックスの『選択』だ。救世主の次の奇跡が見たければ、自由の女神の下へ二時間後に集まれ」といい、空へ消える。

アダムはテレビニュースでイヴの死を知り、それは「奇跡の人」ネオのせいだと決めつけていた。スミスからの召集がかかる。「ネオを殺せ」と。ネットワークを動かし、ネオの集会にまぎれこめと。青い薬を飲んだファン数万人も、連動して集会へと集まってゆく。アダムはイヴの仇を討ちに、集会へ急ぐ。

二時間後。数万人規模がその場所に集まった。現れたネオにアダムが銃を撃つ。一斉に親衛隊たちが撃つ。しかしネオは銃弾を空中で止める。「誰に頼まれた？」と。

「アダム！」とイヴが走ってくる。二人の再会。「私は死んでない！ あの地震で死んだ人たちは、皆『向こうの世界』に行った人たちなの！ 私もそう！ ネオもそう！ こちらの世界は、いずれ崩れる。この赤い薬を飲めば、向こうで目覚めるの！」

そこへ軍隊が囲む。全員エージェントである。「その赤い薬は違法のLSDだ。この新興宗教野郎」マイクを持つのはスミス。「だまされてはいけない」とスミス。「だましているのはマトリックスだ！」とネオ。「では決着をつけようか」「皆が見ているぞ！」「青い薬は全員分あるさ、Mr. アンダーソン」「俺の名はネオだ！」

衆人環視の中で、二人のバトルがはじまる。100人のスミスになる。空中へ飛び、ビルを壊し、地を穿つ。だだ決着はつかない。人々はこの「奇跡」をただ眺めるだけだ。そして、嵐がやってくる。

一方、ザイオン攻防戦。3、4、5番目のネオが戦死（彼らはマトリックス経由で敵のマシンを止める力がある。大量のマシンを破壊するが、それをマシンに察知され、大量のデータを逆流させられ、死亡）。ミフネ船長と少年兵キッドのエピソードなどは活かしつつ、戦局は勝利へ。（ナイオビの活躍は省略か）

余勢を駆り、第一発電所の奪回を、ロックは宣言する。マシンシティへ攻め込む大艦隊。鍵は第一プラントの停止と、「人々が自分の意志で目覚めること」である。

ACT 3

マトリックス内では、モーフィアス、トリニティがラーマを守りつつ、第一発電所へのハッキング（たとえばリローデッドのバックドア戦のようなビジュアル）を試みる。

ネオは人々の前で、スミスと戦いつづける。嵐はますますひどくなる。激しいバトルで倒れる自由の女神。

人類の艦隊は、ネブカドネザル号を護衛し、第一発電所へのアクセスポイントまで誘導。はげしくマシンたちと交戦。6～9 番目のネオも戦死。

スミスに倒され絶体絶命のネオに、トリニティが交信し、妊娠したことを告げる。プラグのない人類（unplugged child）が生まれる、と。ネオはマトリックスを見通す目で、自分の子の姿を透視して確認する。モーフィアスが言う。「follow the white rabbit」と。一作目に出てきた肩のタトゥー。その場所に打撃を与えるネオ。スミスは、苦しみの表情をはじめて浮かべる。モーフィアスが、スミスへの一時的ハッキングに成功したのだ。そこを一気につき、ついにスミスに有効打を。カンフーの闘いの中で、セラフとの組み手と同じ展開になる。「この展開は知っている。選択の方法は知っている」その通りになり、ネオの一撃がスミスの眉間を砕く。

ネオは奇跡を人々に再び見せる。「今から赤い雨を降らせる」と。赤い薬が天から降って来て、人々の前で静止する。さらに言う。「こんな世界が現実だと思うか？ ここは夢の中なんだ！ マシンが見せる、いつまでも続く生ぬるい夢がここだ。われわれ目覚めた人類が、もうすぐこの夢を滅ぼす。いまから空を割って見せよう。太陽を見て考えろ。眠り続けるか、ほんとうの世界で生きるのか！」

拳をつきあげると、嵐の黒雲がまっぶたつに割れ、太陽が顔を出す。思わずみとれる人々。その中で、赤い薬を飲む者が。と、服だけ残して消える。イヴが叫ぶ。「彼は消えたんじゃない。夢の世界から脱出しただけ！ ここは夢なのよ！ 起きて、みんな！」

次々に薬を飲む者たち。それに比例し、ビルの電気が消え、崩れてゆく。「目覚める者が多いほど、この夢は崩れる！」 アダムはイヴに「目が覚めたら、ほんとうの君に会えるのか？」と聞く。「必ずあなたを見つける」とイヴ。アダムはイヴにキスをする。抱きしめた腕の中で、アダムは服だけを残して消える。

崩れゆくマトリックス。オラクルとセラフが、こちらを見ているのにネオは気づく。「いい選択をしたわね」とオラクルは喜んでいる。

カプセルの中で、バシユバシユバシユッとプラグが外れる。目覚める数万人単位の人類。

排出され、それと同時にマシンの電源が次々に落ちていく。ラーマが第一発電所を停止、マシンシティの電源が落ちる。ロックが鼓舞し、艦隊の爆撃がマシンシティを破壊してゆく。イヴは目覚めた人類の中から、アダムを見つけて抱きしめる。

「War is over!」「わー!!」とザイオンの人々も歓喜。「ネオ! ネオ! ネオ! ネオ!」

天候改変装置の小ロケットが、黒雲を突き破る。と、その合間から太陽が差す。人々は、そのぬくもりをはじめて知る。ネオ「暖かい…」トリニティ「ビューティフル…」ネオはその光を、大きくなったトリニティのお腹に当てる。アダムとイヴ、モーフィアスとナイオビも固く手を握る。しかし天候改変の威力はまだ小さく、すぐに黒雲が覆いつくしてゆく。

モーフィアスが持つコンピュータから、オラクルが言う。「あと3回もやれば、時折晴れ間がさすようになるわ。私は、元は天気予報のプログラムだったの」

ネオ V0「オラクル、セラフ、ラーマをはじめ、マシン達に従わないプログラムたちは、我々のコンピュータに転送された。第一発電所を取り戻す、人類にとって最も大きな戦いは終わった。だが地球上には、あと7つ発電所が残されている。世界各所にまだ眠り続ける同志が、崩れかかったマトリックスの中で何も知らず暮らしている。

俺の名はネオ。結果的に、俺が生き残った最後の救世主だ。まだ眠り続ける人類の中に11番目、12番目のネオがいるだろう。マトリックスの中で暮らす人々が、眠り続ける事を選択しないと、信じて。

目覚めよ。俺の名はネオ」

※ エンドロールは、一作目のエンディングと同じ、「Rage against the machine」の「Wake up」がよいと思う。